

東京で100年以上続く54店舗の「老舗」の旦那衆の集まりです



東都のれん會

江戸・東京散歩<1>

上野・浅草・向島・亀戸・浅草橋 編

海老屋	江戸屋	越後屋	榮太樓	梅園	東都のれん會	つぶげや	伊場川	いせ辰	いせ源	天野屋
更科堀井	笹乃雪	駒形どぎ	言問だんご	黒江屋	東都のれん會	木村屋	神田川	神田川	大野屋	大坂家
豊島本店	ちんや	長命寺	竹葉亭	ちま味噌	東都のれん會	手廻り	精養軒	泉屋	志乃多壽司	さるめ
豆源	松崎煎餅	前川	弁松	船橋屋	東都のれん會	梅原	にんべん	中清	鳥安	とらね
浅草橋		龍老館	蓮王庵	吉徳	東都のれん會	山本海苔店	や姥	やげん堀	室町砂場	室町師助

令和二年四月

江戸から東京 三代・百年

Edo Tokyo Brand

江戸・東京散歩 <上野・谷中・根岸>

今回は上野恩賜公園から日暮里に向かって歩きます。

美術館、博物館、図書館……とアート&カルチャーを楽しんだら、谷中霊園をノンビリ歩いて、さてそのあとはどこへ？日暮里？千駄木？ それとも鶯谷方面？江戸の下町情緒が香るエリアへと、散歩コースはまだまだ続きますよ。

■国立西洋美術館が「世界文化遺産」に登録！

2016年7月、上野の「国立西洋美術館」を含む世界7か国に点在する「ル・コルビュジエの建築作品」が世界遺産に登録されました。

国立西洋美術館は、印象派の絵画とロダンを中心とする彫刻を集めた松方幸次郎（当時、川崎造船所社長）の約370点のコレクションを核に、西洋の美術作品を展覧するために昭和34年（1959）に建てられたものです。

実は、松方コレクションは戦後のサンフランシスコ平和条約によりフランス政府の所有に帰していたのですが、日本に寄贈返還されることになり、その際、フランス美術館を創設することが条件となって、当時、フランスで活躍していたル・コルビュジエ（1887-1965）がその設計にあたることになったのです。ル・コルビュジエの建築物の特徴は、ピロティ（柱）、骨組みと壁の分離、自由な平面・立体、屋上庭園にあり、さらに国立西洋美術館は、展示室の中心にとスロープで昇っていく渦巻き形の動線の特徴があるのだとか。

もっともっと深く知りたいという方は、同館で開催されている「建築ツアー」などのイベントに参加を！

*国立西洋美術館：<http://www.nmwa.go.jp/>

■見どころいっぱい、上野恩賜公園

ご存知、上野公園です。園内には、クラシック音楽の殿堂「東京文化会館」や「上野動物園」などのアミューズメント施設があり、さらには「上野の森美術館」、「国立西洋美術館」、「国立科学博物館」、「東京都美術館」、「東京国立博物館」、「旧奏楽堂」と、カルチャー&アート施設がいっぱい。さらには上野東照宮などの歴史的な名所もありますし、いうまでもなくここは江戸時代から続く、お花見の名所でもあります。

ところで、この上野公園が現在の緑豊かな公園になったのは、1人の外国人のおかげだっただけをご存知ですか？幕末の彰義隊の戦いで焼け野原になった上野の森は、明治維新を迎えたあと、一大医療センターにしようという計画が進んでいました。

ところが、大学東校（東大医学部の前身）教授であるオランダ人のボードイン博士に、その計画を話しながら上野の山を案内したところ、「こんなに自然豊かな場所をつぶして、学校や病院を建てるなんて、とんでもない。大都市には公園が必要で、世界の都市で公園のないところでは、植樹の努力をしてでも公園をつくる努力をしているのに…!!」と、一括。

かくして、医療センター計画は本郷にうつされ、上野は緑あふれる文化公園になったんだとか。この言葉、いまでも聞かせたい人がいっぱいいますね。ボードイン先生に拍手！



(左画像) 国立西洋美術館の前庭には、ロダンの「カレーの市民」像がたっています。「考える人」や「地獄の門」も前庭に。

(中央画像) 旧因州池田屋敷表門。もとは因州（いまの鳥取県の一部）池田家の江戸屋敷表門で、現在の丸の内3丁目にありました。土・日・祝日は門が開けられ、東京国立博物館の出口として通り抜けられますよ。重要文化財。

(右画像) 旧東京音楽学校・奏楽堂。明治23年に創建された日本最古の木造の洋式音楽ホールで、国の重要文化財。年100回以上のコンサートが催されています。

■江戸の名刹、寛永寺



寛永寺は、徳川家康の信頼あついで僧侶、天海僧正によって寛永2年（1625）に創建されたお寺です。正式名は、「東叡山 寛永寺」。東叡山というカンムリがつけられているように、このお寺は京都の比叡山にならったもので、比叡山が京都の鬼門に建てられて京の都を守ったように、こちらも江戸の鬼門に建てられ、江戸と徳川家を守る役割を背負っていたんです。

ちなみに、不忍池は、琵琶湖になぞらえて造られたものなんです。

徳川家の菩提所でもあるので、敷地は広大。上野の山のほとんどが、寛永寺の寺域だったのですが、現在「寛永寺」と呼ばれているお寺は、ひっそりと鎮まった小さな境内。もともと寛永寺の子院だった大慈院があったところが、いまの寛永寺なんです。

でも、実はここ、最後の将軍、徳川慶喜が朝廷に恭順の意をあらわすためにこもったという、歴史に名をのこすところなんです。境内に建つ根本中堂は、明治12年（1879）に川越にある喜多院の薬師堂を移築したもので、寛永15年の建造。屋根には徳川家の三つ葉葵の紋があるので、見落とさないでね。

■建築探偵さんにもおすすめ！ 国際子ども図書館

通称、上野図書館として親しまれてきた国立国会図書館支部上野図書館庁舎が、2002年にリニューアルオープン。子どもの本の紹介を中心にした、素晴らしい図書館に生まれ変わりました。館内には世界中の絵本や児童書がぎっしり。でも、見やすく並べてあるし、読書できるコーナーもゆったり造られていて快適です。ほかに「コドモノクニ」に掲載されていた絵画をパソコンで見ることができるコーナーやイベントホール、カフェテリアも併設。真面目に子どもの本について調べたい人には、充実した資料が閲覧できる部屋もあります。ところで、この図書館は建築が大好きな人にもおすすめなんです。明治39年に建てられ、昭和4年に増築された建物の原形を残しながら今回のリニューアルを手がけたのは、建築家の安藤忠雄氏。ガラス張りの斬新なエントランスをくぐり抜けると、内部は……？？これは、行ってのお楽しみにしておきましょう。休館日は原則、毎週月曜と祝日。ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/service/use.html> を参照して出かけてね。



国際子ども図書館。
明治・昭和・平成の3つの時代に造られた建物が一体となった斬新な建物。
内部も「ホー！」とびっくりしちゃうモダン造りですよ。

■ドラマいろいろ、谷中霊園

寛永寺の西北に広がっているのが谷中霊園。天王寺というお寺の境内の一部だったのですが、明治7年に東京都の公共墓地になりました。広さは約10万平方mもあって、迷子になりそうな広さです。有名人のお墓も多く、筆頭は15代将軍 徳川慶喜のお墓。ほかに、小説家の獅子文六や園地文子、広津和雄、画家の横山大観や鏑木清方、俳優の長谷川一夫、そして名横綱の柏戸のお墓もここに。天気の良い週末には、こうした有名人のお墓を探しながら歩くグループや観光客なども多くて、結構にぎやか。普通の墓地とは、ちょっと違う不思議な散歩道になっています。でも、歴史ファンなら、この霊園のものを持ち主だった天王寺を忘れちゃいけません。天王寺はもともとは日蓮宗の寺で、名前も感応寺といいました。江戸時代には「富くじ」が興行されたことでも知られた人気のお寺だったんです。ところが、寺の教義が江戸幕府の宗教政策に合わず、反抗する態度まで見せたため、元禄年間に無理やり天台宗に改宗させられ、のちには寺名まで改めさせられたのです。

そして、明治時代には、敷地の大部分が共同墓地のために没収……。なんとも数奇な運命をたどったお寺でしょ？でも、ドラマはこれだけではまだ終わりません。この天王寺（感応寺）のシンボルは、幸田露伴の名作『五重塔』のモデルともなった塔でしたが、昭和32年に焼失。それが、放火心中だったというからびっくりです。この五重塔、いまは礎石が残っているだけ。『五重塔』を読んでからでかけると、散歩がいよいよドラマティックになるかもしれませんよ。



(左画像) 春は桜の名所でにぎわう谷中霊園。

(中央画像) 天王寺五重塔跡の礎石。幸田露伴の小説『五重塔』のモデルとなった塔は2代目で、寛政3年(1791)の建立。総檜造りで、高さ約34メートルもあり、当時は関東一の高さを誇っていたそうです。

(右画像) 天王寺。門をくぐると、元禄3年(1690)に造られた銅製の釈迦如来坐像が出迎えてくれます。

■子規庵

子規庵は、正岡子規が27歳から住み、35歳の生涯を閉じたところです。ただし、当時の家は昭和20年の空襲で焼失し、現在、私たちが見ることができるのは、昭和25年に再建された家です。いまさら…かもしれませんが、まずは、子規のプロフィールを簡単にご紹介しましょうか。正岡子規は、慶応3年(1867)、現在の松山市に生まれました。翌年が明治元年です。本名、常規(つねのり)、幼名は処之助(ところのすけ)、のち升(のぼる)と改めました。父は松山藩の藩士で、母は儒学者の長女。17歳で東京大学予備門(のちの第一高等学校)へ進み、この時の同級生が夏目漱石。やがて二人は信頼を寄せ合う親友になっていきました。その後の活躍はご存知のとおり。『ホトトギス』を創刊し、文章革新運動をすすめ、高浜虚子などの門弟を輩出……。

ところで、「子規」という号は、子規が22歳の時に初めて略血し、その夜、ホトトギスの句を作ったことに始まります。ホトトギスは、時鳥とも不如帰とも、子規とも書き、口の中が赤く、そこから肺結核の代名詞ともなったのですが、子規を襲ったこの病いは、その後も直ることなく、やがて命を奪います。結核性の瘍椎骨カリエスも併発した厳しい病状については、『病牀六尺』に詳しく、食べては苦悶し、それでも食べ続けた怒涛のような食欲については『仰臥漫録』に記されています。文庫本にもなっているので、ご一読を。絶筆となった俳句は、ヘチマをうたった3句。そのうちの一つ「をととひのへちまの水も取らざりき」。夏になると、再建された子規庵の庭にも、立派なヘチマが実ります。



子規庵は、車一台がやっと通れる程度の細道に面している。
子規が「病牀六尺、これが我世界である」と書いた部屋も当時のままに再現されていて、小さな部屋の畳の上に座って庭を見ていると、いまでも子規のエネルギーが感じられて、圧倒されます。

【老舗散歩も楽しんでね】



- ・ 上野精養軒 台東区上野公園 4-5 8 ☎ 03-3821-2181
- ・ 蓮玉庵 台東区上野 2-8-7 ☎ 03-3835-1594
- ・ 羽二重団子 荒川区東日暮里 5-5 4-3 ☎ 03-3891-2924
- ・ 笹乃雪 台東区根岸 2-1 5-1 0 ☎ 03-3873-1145
- ・ 菊寿堂いせ辰 台東区谷中 2-1 8-9 ☎ 03-3823-1453

江戸・東京散歩 <浅草>

今回の江戸・東京散歩は浅草を歩きます。

毎年5月第3金・土・日に催される「三社祭」を筆頭に、1年を通してお祭りが多い浅草。お祭りがなくても、町を歩けばお祭りムードいっぱい。グルメにショッピング、そしてお参り。にぎやかな散歩をしたい時は、浅草へ！

■雷門

浅草のシンボルといえば、大きな提灯が下がる雷門。門前は記念写真を撮る人や、待ち合わせの人で大にぎわい。若い車夫さんが「人力車で浅草観光をしませんか〜」と観光客に呼びかける声も入り混じって、いつも活気にあふれる江戸名所です。

雷門は、言わずと知れた浅草寺の表玄関で、『江戸名所図絵』では「雷神門」と紹介されています。もとは天慶5年(942)に現在の駒形端の西詰めに創建され、今の場所に移されたのは鎌倉時代だとか。その後、幾度も火事にあい、そのたびに再建されていましたが、幕末の慶応元年(1865)の焼失後は長く再建されませんでした。その再建がやっと叶ったのが、昭和35年(1960)。寄贈したのは松下幸之助氏でした。

雷門は昔からずっとここにあって浅草を見守っていたようなイメージがありますが、明治・大正・そして昭和の半ばまで100年以上も「幻の門」だった時期があったんです。ちょっとビックリ！？



雷門は浅草のシンボル、そして東京観光の随一の名所。
昭和35年に再建された現在の門は鉄筋コンクリート造りです。

■仲見世

雷門をくぐり抜けたところから浅草寺の境内に向かって続いているのが、「仲見世」と呼ばれる商店街。約250mの道筋には人形焼やお煎餅、佃煮といったお土産屋さんをはじめ、靴やカバン、おもちゃ、洋服など、バラエティ豊かな店舗がぎっしり建ち並んでいます。東側に54店、西側に34店、合計88の店が集まっているそうですよ。

仲見世の始まりは、元禄・享保時代(1688~1735)と伝えられ、日本で最も古い商店街の一つ。もともとは浅草寺境内の清掃の賦役をさせられていた周辺に住む人たちに、その見返りとして寺が参道に店を出す特権を与えたのが始まりだそうです。明治18年(1885)には、文明開化の象徴ともいえるレンガ造りの2階建ての商店街に一新。この斬新な商店街は大正12年の関東大震災で壊滅しますが、まもなく桃山風を取り入れた鉄筋コンクリート造りの商店街が復活しました。その後も戦災で焼け果ててしまいましたが、戦後いち早く復興したのは、やはり江戸下町っ子の心意気というものでしょう。



電柱がないのでスッキリした商店街になっています。
でも、それに気がつかないほど、いつも人でいっぱいですよ！

■宝蔵門（仁王門）

仲見世を抜けると正面に見えてくるのが「宝蔵門」。高さ21.7m、間口21.1mの堂々たる門で、宝蔵門の名は、国宝の「法華経」、重文の「元版一切経」、四天王などの寺宝を収蔵しているところからです。でも、門の左右に仁王様が安置されているので、通称「仁王門」とも呼ばれています。

門自体は平安中期からあったと伝えられ、木造として最後に建てられたのは慶安2年(1649)。将軍家光の命によるものでしたが、昭和20年(1945)の空襲で本堂とともに焼失し、現在のものはホテルニューオータニの大谷米太郎氏の寄進によるものです。

なお、門の中央に掲げられた提灯は、貞享年間(1684~1687)年以来、日本橋小舟町によって奉納されているもので、現在のものは江戸開府400年を記念して15年ぶりに新調されたもの。

また、門の裏側(本道側)の両サイドにかけられた「大わらじ」は一つが長さ4.5m、幅1.5m、重さ400kgもあり、山形県村岡市の「奉賛会」により奉納されたものです。



十数回もの火災にあった浅草寺本堂の歴史は、再建・復興の歴史ともいえるでしょう。
現在の本堂は、鉄筋コンクリート造り。急勾配の屋根が特徴です。

■浅草寺本堂

にぎやかな参道の突き当たりにあるのが、浅草寺の本堂です。

今から1300年以上も前のこと。二人の兄弟が隅田川で漁をしていると、人の形をした像が網にかかり、それを土地の長老である土師真仲知（はじのまつち）に鑑定してもらったところ観音像であることがわかりました。そこでお堂を建てて観音像を祀った——というのが浅草観音金亀山浅草寺の起源です。寺が隆盛を極めたのは江戸幕府の庇護を得てからで、本堂も家光が慶安2年(1649)に再建したものです。国宝となっていました。戦災で焼失。現在の建物は、昭和33年（1958）年に再建されたものです。聖観音宗の総本山で、本尊は聖観音菩薩像。



十数回もの火災にあった浅草寺本堂の歴史は、再建・復興の歴史ともいえるでしょう。現在の本堂は、鉄筋コンクリート造り。急勾配の屋根が特徴です。

■浅草神社

浅草寺本堂の東側に建つのが、浅草神社。浅草寺の歴史の中でできた、観音様を拾った兄弟と、それを鑑定した土地の長老の3人を祭神としたのが、ここ浅草神社。そして、三人の祭神を祀っているので”三社さま”とも呼ばれているのです。

「三社祭」が浅草寺のお祭りだと思っている人も多いようですが、お間違いない！ここ浅草神社の祭礼ですからね。浅草神社の創建年代ははっきりしませんが、鎌倉時代にはすでに社殿があり、祭りも行われていたことがわかっています。現在の社殿は慶安2年（1649）、家光によって再建されたもので、本殿、幣殿、拝殿ともに国指定の重要文化財になっています。



（左画像）重要文化財の本殿。東京に残る江戸時代初期の建築物として、とても貴重なものです。

（右画像）鳥居の外にある神輿庫には、三社祭で繰り出す本社神輿が展示されています。

■二天門

浅草寺の東門で、浅草神社の鳥居横に建っています。元和4年（1618）、将軍秀忠が父・家康を祀るために造営した浅草東照宮の隨身門として建てられたと伝えられています。浅草東照宮が火事で焼失したときも、この門だけは炎上をまぬがれました。

その後、明治の神仏分離令で隨身像は持国天・増長天の二天に変えられることになり、門も二天門と改名。ちなみに、この時に作られた二天はその後の火災で焼失。現在の二天は、上野寛永寺の厳有院（将軍・家綱霊廟）勅額門から移された江戸時代初期（慶安年間）の作品です。

二天門は、雷門などと比べると見た目の華やかさはありませんが、歴史的価値の高さは浅草寺随一。年月を刻んできた風格がたどい、国の重要文化財に指定されています。



その昔は、浅草にも東照宮があったんですね。この二天門は、その折に造られた歴史的な門なのです。

【老舗散歩も楽しんでね】



- | | | |
|-------------|---------------|----------------|
| ・ 駒形どぜう | 台東区駒形 1-7-12 | ☎ 03-3842-4001 |
| ・ 中清 | 台東区浅草 1-39-13 | ☎ 03-3841-4015 |
| ・ 駒形 前川 | 台東区駒形 2-1-29 | ☎ 03-3841-6314 |
| ・ ちんや | 台東区浅草 1-3-4 | ☎ 03-3841-0010 |
| ・ 梅園 | 台東区浅草 1-31-12 | ☎ 03-3841-7580 |
| ・ やげん堀 中島商店 | 台東区浅草 1-28-3 | ☎ 03-3626-7716 |
| ・ 宮本卯之助商店 | 台東区浅草 6-1-15 | ☎ 03-3873-4155 |

江戸・東京散歩 <向島>

向島散歩、こんなプランはどうでしょう。行きは、川の1本東側の通りを北上。由緒あるお寺が次々に現れて、隅田川七福神のご利益にもあずかれるこの道沿いには、向島の料亭も軒を連ねます。長命寺から先は少し殺風景な道になりますが、百花園に到着すれば、くたびれた足も、疲れた心もリフレッシュするはず。帰りは”桜の名所・墨堤（ぼくてい）”をゆっくり歩いて戻しましょう。8代将軍吉宗がこの地に100本の山桜を植えて以来の桜道。江戸の風趣が香る散歩道です。

■牛島神社（うしじまじんじゃ）

江戸時代には水戸徳川家の下屋敷の一部だった「隅田公園」の北端に建つ古社。平安初期の貞観2年（860年）の創建と伝えられ、もとは現在の弘福寺のそばにありましたが、関東大震災後の昭和7年、ここに移転しました。社の名はこのあたりがその昔、牛嶋の名前で呼ばれていて、この社が総鎮守だったことから、『江戸名所図会』には「牛御前（うしごぜん）王子権現社」の名で記されています。ここに参拝する人が必ず立ち寄るのが、青銅製の「撫牛（なでうし）」。文政8年（1824年）の作だそうで、体の具合が悪いとき、牛の同じ部分をなでると病気が治るとか。しっかり牛の頭をなでてきました。



赤いよだれかけをした青銅製の撫牛。
境内には他にもたくさん牛の像がありますが、この像にだけ屋根がかけられています。

■三囲神社（みめぐりじんじゃ）

隅田川七福神の「大黒さま」と「恵比寿さま」を祀っています。弘法大師の創建と伝えられ、文和年間（1352～1356）、三井寺の僧が訪れたときに神像が出土し、そこにあらわれた白狐が神像の周りを三度まわったことから、この名前がつけられたと伝えられています。でも、このの圧巻は、境内のそこそこにある石碑。形も大きさもさまざまに、50余り。それぞれに由緒がありますが、なかでも有名なのは芭蕉の高弟・宝井其角の「雨乞の碑」です。雨乞いをしている農民たちを見て読んだ句で「遊ふた地（夕立）や 田を見めぐりの神ならば」。ちなみに、この雨乞いのおかげで、本当に雨が降ったというオチもついているそうですよ。



境内は石碑でいっぱい。石碑ウォッチャーには宝の山です。

■弘福寺

黄檗宗の寺で、隠元禅師の弟子である鉄牛（てつぎゅう）禅師が延宝元年（1673）に開いた禅宗のお寺。簡素ですが、中国風の造りの山門や本堂が、ひときわ目を引きます。正式な名は、牛頭山弘福禅寺。境内に入っつすぐに隅田川七福神の「布袋さま」が祀られています。参拝の人々はその隣の小さな石像にも手を合わせます。ここが、通称「咳の爺婆（せきのじじばば）」。咳止めや風邪にご利益があるんだそうですよ。勝海舟が、このお寺に座禅に通ったというエピソードもある名刹です。



大きくはありませんが、禅宗のお寺らしい重層の山門が風格たっぷり。

■長命寺

隅田川七福神の「弁天さま」を祀っているお寺。創建時期などはよくわかっていないのですが、現在の寺の名が誕生したエピソードが伝えられています。ときは寛永年間（1624～1644）、三代将軍家光が鷹狩りの途中で腹痛をおこし、この寺に運びこまれました。そして、境内の井戸の水を飲んだところ、たちまち回復。かくして家光が、この井戸の水を長命水と命名、お寺の名も改められたとか。

江戸時代には文化人たちが集まり風雅を楽しんだようで、境内には芭蕉の句碑をはじめとする句碑や歌碑、筆塚などがいっぱい。芭蕉の句碑は「いざさらば雪見にころぶ所まで」。芭蕉が熱田神宮に参拝したときに詠んだ句ですが、当時、この寺が雪見で知られていたことから、この地に建てられたようです。



明るい雰囲気の本堂。

境内に数多くある石碑のなかには、弥次さん・喜多さんの『東海道中膝栗毛』で有名な、十返舎一九の辞世の狂歌碑なども。

■向島百花園

現代に唯一残る江戸時代の花園で、国の名勝・史跡。

文化文政年間（1804～1830）、骨董商の佐藤鞠塙（さとう・きくう）が梅園として開園した庭でしたが、文人墨客が集ううちに古典に詠われている草花を植え、さらに池や句碑などを配した庭園になっていったそうです。昭和13年に、永久保存のため所有者から東京都に寄付されました。

園内には藤棚や萩のトンネルなどの見どころもありますが、園路のまわりに咲く小さな草花が愛らしく、名札がつけられているので花オンチの人にもおすすめ！「今日見ることができる花」を紹介する掲示板があり、花のある場所がわかりやすく示されていて、感激。都内屈指の「心やさしき庭」という印象でした。8月下旬には「虫ききの会」、中秋の名月の頃には「月見の会」などの催しも。隅田七福神の「福祿寿さま」も祀られています。なお、隅田七福神は、この先、北へ、白髭神社（寿老人）、多聞寺（毘沙門天）と続いています。



カタクリ、ミスミソウ、アツモリソウ、トロロアオイ、ミツバアケビ、アジサイ、ヘビウリ、コウホネ、ハギ、キキョウ、クズ、フクジュソウ、ロウバイ・・・。

1年中、可憐な草花が楽しめます。

■幸田露伴ゆかりの露伴児童遊園

文豪幸田露伴は慶応3年（1867）に江戸・下谷で生まれた人ですが、作家となってあと腰を落着けたのは向島の地でした。

明治30年（1897）に庭付きの家を借り受けて住み、「蝸牛庵（かぎゅうあん）」と命名。明治41年にはその近くに家を新築。大正13年に小石川に転居するまでの約30年間を向島で過ごし、随筆などにも自宅周辺の様子を描いています。

露伴児童遊園は、この二番目の「蝸牛庵」が戦災で焼失したあと整備された小さな公園。

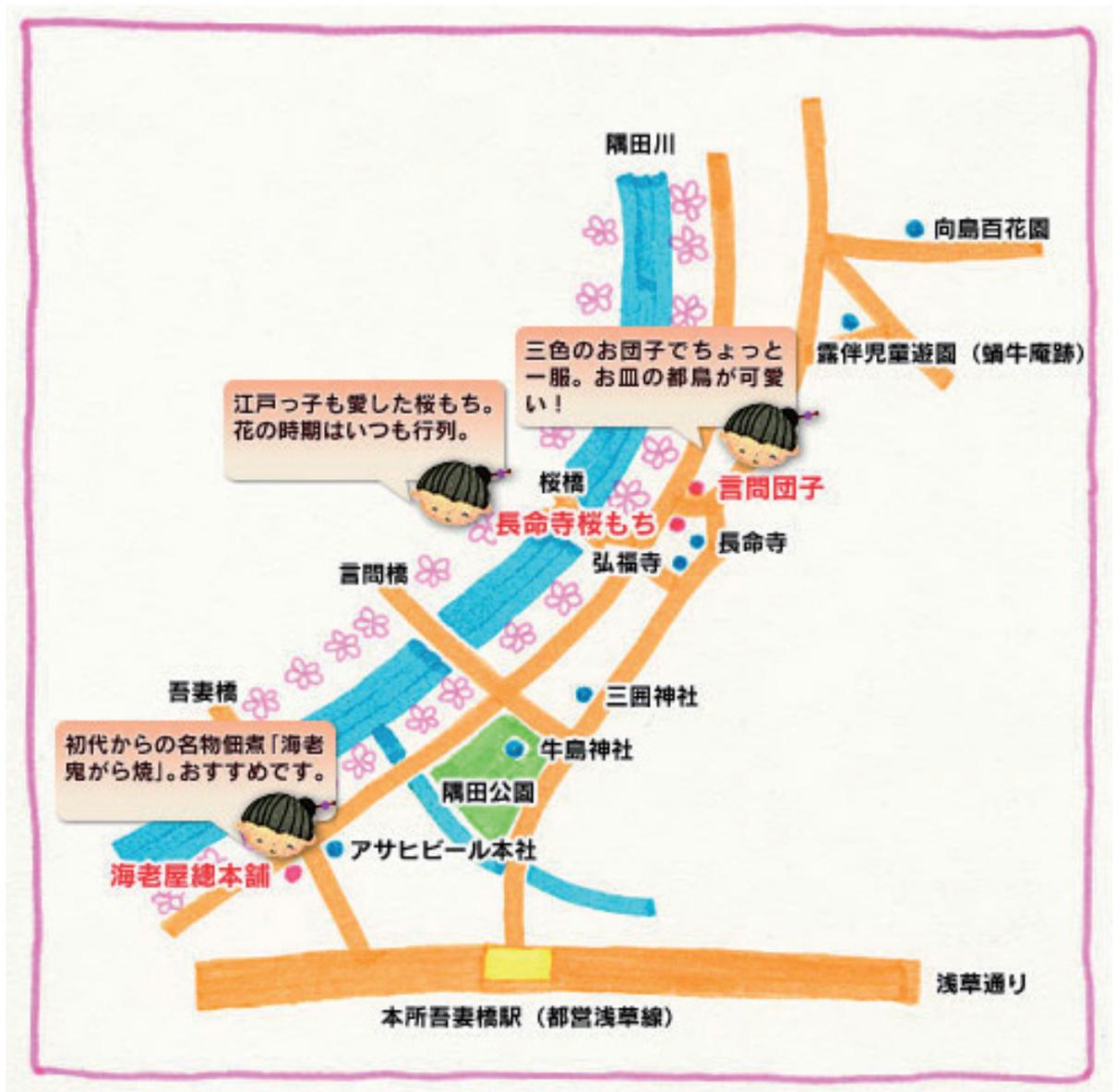
露伴の『運命』の一節が刻まれた文学碑が建っています。なお、最初の蝸牛庵は、現在、明治村に保存されています。



蝸牛庵の跡地にある露伴児童遊園。

蝸牛というのは、カタツムリのことです。

【老舗散歩も楽しんでね】



- ・ 言問団子 墨田区向島 5 - 5 - 22 ☎ 03 - 3622 - 0081
- ・ 長命寺桜もち 墨田区向島 5 - 1 - 14 ☎ 03 - 3622 - 3266
- ・ 海老屋總本舗 墨田区吾妻橋 1 - 15 - 5 ☎ 03 - 3625 - 0003

江戸・東京散歩 <浅草橋・両国・亀戸>

今回は、JR 総武線沿線のお散歩。

浅草橋から亀戸までを旅します。江戸時代の歌舞伎作者や浮世絵師、明治の小説家や名落語家、財閥……多彩な人物が住んでいたこのエリア。ノスタルジックな風景も魅力の散歩道です。

■浅草橋と柳橋

JR 総武線と都営地下鉄の駅がある「浅草橋」。江戸通りに面して人形問屋がたくさん並んでいることで知られていますね。この江戸通りを南に歩いて、すぐ渡る橋が「浅草橋」です。江戸時代からの歴史がある橋で、『江戸名所図絵』にも描かれているのは、ここが江戸から日光・奥州へ出る交通の要衝だったからです。橋から下をのぞきこむと、神田川が流れています。「あなたは も〜う 忘れたかしら……」の、あの神田川。浅草橋と、すぐ隣りに並ぶ「柳橋」の間の川面には屋形船がいっぱいとまわっていて、兩岸には船宿も並んでいます。柳橋の先は、神田川と隅田川の合流点。ここから屋形舟に乗って隅田川を下る舟遊びは、江戸時代もいまも変わらぬ東京の夏の風物詩です。

ところで、この柳橋の名が有名なのは、江戸時代に花街があったから。天保の改革のあと、幕府の規制がゆるんだすきに、深川芸者 30 人ほどがここに移ってきて商売を始めたそうです。柳橋のお姉さんたちは、下町らしいキリリとした風情と人情豊かなところがあって、新橋や深川の花街の芸者さんとはまたちょっと違う人気があったんだそうですよ。そして、山本周五郎の『柳橋物語』も、この地を有名にした立役者。涙なくしては読めない名作。おすすめです。



(左画像) 柳橋から眺める神田川。川には屋形舟が、岸には船宿が並んでいます。不思議な哀感とノスタルジーがただぶる東京の名所。カメラを構える人もたくさんいます。

(右画像) 柳橋。その昔は土手に柳が並ぶ、やさしい景色の中に架かっていた橋ですが、土手が切り崩され、橋も鉄骨製になって、昔の面影はありません。残念。

■国技館と江戸東京博物館

両国橋を渡ると、すぐに両国駅。この駅のまわりにはたくさんのお見どころがあります。南側のエリアは【忠臣蔵を歩く】の回を参考にさせていただいて、今回は、駅の北側エリアを歩きましょう。

まず、駅の北側に建つのが、「国技館」。1年に6場所、執り行われる大相撲の1月・5月・9月場所が、ここで行われます。館内では大相撲観戦はもちろん、たっつけ袴姿の「出方さん」がきびきびと動き回る通称「お茶屋通り」の、情緒たっぷりの雰囲気にも感動させられます。柵席を奮発して、お弁当を食べながらゆっくり相撲観戦といきたいですね。チケットの買い方などは <http://www.kokugikan.co.jp/> (相撲案内所)

相撲については <http://sumo.or.jp/> (日本相撲協会) そして、国技館のすぐ東側にそびえ立っている巨大な建物が「江戸東京博物館」です。江戸ファンにはもうお馴染みでしょうから、くわしく説明しませんよ。一見の価値あり、なかなかの展示です。でも、企画展もいいので、一度といわず何度も行ってください。江戸のことなら、「江戸東京博物館」か「東都のれん会サイト」ですからね。よろしくー! <http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/> (江戸東京博物館)



(左画像) 国技館。相撲は実際に見ないと、そのおもしろさがわからないよ。取り組みの迫りも、独特の粋な情緒も!

(右画像) 江戸東京博物館。巨大な建物にビックリ。展示も期待を裏切りません。

■旧安田庭園、野見宿禰神社など (両国駅周辺の見どころ)

両国駅の周辺には他にもたくさんのお見どころがあるので、まとめて紹介しちゃいましょう。

まず、国技館のすぐ北側に「旧安田庭園」。江戸時代は下野足利藩の下屋敷で、明治維新以後は岡山藩池田氏の邸宅に。やがて財閥・安田家の別邸となり、現在は墨田区の公園となっています。隅田川と結ばれている庭園内の池は、潮の干満によって高さが変わる「潮入りの池」。です。旧安田庭園の北東にあるのが「東京都慰霊堂」。4万人を超えるともいわれる関東大震災(大正12年9月1日)と、東京大空襲(昭和20年3月10日)の犠牲となった人々を供養しています。建物は名建築家・伊藤忠太の作品で、“建築探偵さん”たちもよく訪れているようです。

江戸東京博物館の東側にも足をのぼしてみましょ。 「北斎通り」と呼ばれる通りに入って、すぐのところにあるのが「葛飾北斎生誕の地」の碑。『富嶽三十六景』など数々の浮世絵の傑作を残した北斎は、ここで生まれたのです。北斎は引越し魔で、一生のうち93回も引越したそうで、亡くなったのは浅草だとか。さらに東に歩くと「野見宿禰(のみのすくね)神社」。野見宿禰は相撲の神様(神代の頃のエピソードに出てきます)なので、相撲関係者の信仰が篤いお社です。境内には歴代横綱の名前が刻まれた石碑が建っていて、これはお見逃しなく。

なお、この神社の周辺には歌舞伎の集大成者で狂言作者でもあった「河竹黙阿弥」や、明治の人情噺の名人「三遊亭円朝」も居を構えていました。



(左画像) 野見宿禰神社。信号のある交差点角にあります。見落としやすいので注意。思いがけなく小さいお社です。

(右画像) 歴代横綱の名前が刻まれた石碑。朝夕、若乃花……懐かしい名前も並んでいて、相撲ファンでなくても結構おもしろいですよ。

■亀戸天神社

亀戸といえば、亀戸天神社。亀戸天神、亀戸天満宮、亀戸の天神さまなどとも呼ばれて、善男善女に親しまれている古刹です。いうまでもなく、祭神は菅原道真公。九州・太宰府天満宮の神職が夢のお告げに導かれて、この地に至り、分祀したのが寛文2年（1662）と伝えられ、以来、関東における天神信仰の中核として栄えてきました。境内の池や太鼓橋、社殿なども太宰府天満宮を模して造営されたもので、庭園は安藤広重の『江戸名所百景』にも描かれた江戸以来の花の名所。特に 藤の見事さは関東随一です。開花状況が毎年「船橋屋」のHPで紹介されていますので、参考にさせていただきます。

<https://www.funabashiya.co.jp/>（船橋屋）。また、このお社は1年を通して行事が多く、なかでも毎年1月24・25日の“初天神”の日に行われる「鶯替（うそかえ）神事」は“凶を吉に変える”行事として広く知られています。鶯の数に限りがあるので、お出掛けは お早めに！

<http://www.kameidotenjin.or.jp/>（亀戸天神社）なお、亀戸は古刹の多い町で、亀戸天神の北には流鏑馬（やぶさめ）の行われる「天祖神社」、東には伊藤左千夫の墓がある「普門院」があり、その北隣は文化文政時代の人気浮世絵師・三代豊国（歌川国貞）が眠る「光明寺」、そこから東に数分歩けば藤原鎌足ゆかりの「香取神社」……などなど。三代 豊国の「猫背猪首型」の美人画なんぞを見てからお出掛けすると、いよいよ江戸散歩らしくなりそうですよ。



（左画像）亀戸天神社。藤と学業成就のご利益で知られる社。太鼓橋を渡ってお参りしましょう。

（右画像）亀戸天神社の梅。梅の季節には、受験の季節。合格祈願をする学生や父兄でにぎわいます。

■伊藤左千夫と普門院

歌人であり、小説『野菊の墓』でも知られる伊藤左千夫（1864-1913）は、千葉県生まれです。若くして上京し、明治22年に牧場を開きましたが、その場所というが、現在のJR錦糸町駅南口のバスターミナルあたりというから、ちょっとビックリです。短歌を始めた左千夫は、正岡子規に認められて終生師事し、子規の唱えた「写生」に基づいて事実をくもりのない目で見、表現することを学びます。

有名な歌を、一つご紹介しましょう。「牛飼が歌よむ時に世のなかの 新しき歌大いにおこる」いい歌でしょ？伊藤左千夫の墓があるのは、亀戸天神社の東北にある「普門院」。墓は小ぶりですが、中村不折の筆による大きく刻まれた名前が、左千夫の偉大さと、多くの人々に愛されたことを物語っています。シュロの葉がおおいかぶさって、日中でも日陰になる場所にあるのですが、いつも左千夫の人柄にふさわしい可憐な野の花が供えられています。享年48歳でした。



（普門院にある伊藤左千夫の墓。普門院は「亀戸七福神」のうち毘沙門天がお祀りされている真言宗のお寺です。亀戸七福神は江東区のHPを参考に歩いてね。

1まわりで約1時間30分の福招き散歩ができますよ。

<https://www.city.koto.lg.jp/103010/bunkasports/kanko/meguri/119.html>（江東区）

【老舗散歩も楽しんでね】



- ・ 亀戸 船橋屋 江東区亀戸 3 - 2 - 14 ☎ 03 - 3681 - 2784
- ・ 両国橋 鳥安 中央区東日本橋 2 - 11 - 7 ☎ 03 - 3862 - 4008
- ・ 吉徳 台東区浅草橋 1 - 9 - 14 ☎ 03 - 3863 - 4419